

FAAのELT (Emergency Locator Transmitters) に関する発表

○FAAのHPから

http://www.faa.gov/news/press_releases/news_story.cfm?newsId=14914

Press Release - ELTs aboard Boeing 787 aircraft

For Immediate Release

July 20, 2013 Contact: Kristie Greco Phone: 202-557-6127

FAA Statement

After reviewing the initial findings of the AAIB's report and recommendations, the Federal Aviation Administration is working with Boeing to develop instructions to operators for inspection of the Emergency Locator Transmitters (ELTs) on Boeing 787 aircraft.

These inspections would ask operators to inspect for proper wire routing and any signs of wire damage or pinching, as well as inspect the battery compartment for unusual signs of heating or moisture.

The FAA is preparing to issue an Airworthiness Directive in the coming days that would make these inspections mandatory. Federal Aviation Regulations do not require large commercial aircraft in scheduled service to be equipped with these devices.

Over the weekend, the FAA will be communicating its intentions to aviation safety regulators in other countries.

As an active participant in the AAIB's investigation, we continue to work closely with the AAIB, along with Boeing and Honeywell, as the investigation continues into the cause of the recent fire aboard a 787 jetliner while parked on the ground in London.

(報道より)

○NHK B787 国内2社も無線機調査検討 7月20日 15時52分

イギリスの空港に駐機中のボーイング787型機から火が出たトラブルについて、全日空と日本航空は、今後、製造国のアメリカの航空当局などの指示があれば原因と見られる無線機を機体から取り外し、詳しく調べることを検討しています。

今のところ無線機に異常はないということです。

787型機を巡っては、12日、ロンドン郊外の空港に駐機中のエチオピア航空の機体から火が出て、イギリスの航空当局は、救難信号を出す無線機の不具合が原因だという見方を示しています。

さらに、アメリカのFAA＝連邦航空局は、19日、無線機の配線やバッテリーを詳しく調べるよう、近くアメリカの航空各社に求める方針を示しています。

このため、合わせて29機の787型機を所有する全日空と日本航空は、今後、FAAなどの指示があれば、無線機を機体から取り外し、詳しく調べることを検討しています。

また国土交通省も、1機に2つ搭載されている無線機のうち、1つを一時的に取り外しても飛行を許可する措置をとりました。

全日空と日本航空によりますと、今のところ無線機に異常はなく、通常どおり運航しているということです。

○NHK 米連邦航空局 無線機の調査指示へ 7月20日 12時10分

イギリスの空港で駐機していたエチオピア航空のボーイング787型機から火が出たトラブルで、アメリカのFAA＝連邦航空局は、787型機を運航する航空会社に対して、火災の原因とみられている無線機に異常がないか調査するよう求める方針を示しました。

このトラブルは、12日、ロンドン郊外のヒースロー空港に駐機していたエチオピア航空の無人のボーイング787型機から火が出たものです。

イギリスの航空当局は、18日、機体の後方に設置された、救難信号を出す無線機の不具合が原因ではないかとの見方を明らかにし、アメリカのFAAに対して、適切な対応が完了するまで当面の間、ボーイング787型機を運航する航空会社がこの無線機を使わない措置をとることなどを勧告しました。

これに対して、FAAは、19日、声明を発表し、無線機の配線に損傷がないかや無線機のバッテリーの周辺に熱や湿気による異常が見られないか、アメリカ国内の航空会社に対して近く、調査するよう求める方針を示しました。

さらに、日本など各国の航空当局ともこの方針について協議する考えも示しました。

ただ、FAAは、イギリスの航空当局の勧告にあった、無線機を使わない措置をとることまでは求めませんでした。

787型機はことし1月、メインバッテリーから火や煙が出るトラブルが相次いだため世界各地で運航が停止され、改修を行ったあと、4月以降、運航が再開されました。